

## 平成29年度 第1回千葉市スポーツ推進審議会議事録

- 1 日 時 平成29年7月19日(水) 午後2時00分～午後3時30分
- 2 場 所 千葉市教育委員会 第2会議室
- 3 出席者 (委員)  
小川直哉会長、本澤英雄副会長、小川重夫委員、小山恒明委員、五月女重夫委員、佐藤正典委員、谷藤千香委員、馬場宏輝委員、松尾和美委員、山根和子委員  
(事務局)  
安藤生活文化スポーツ部長、塚瀬(公財)千葉市スポーツ振興財団施設長、山崎スポーツ振興課長、内山スポーツ振興課長補佐、由利主任指導主事  
宇井担当課長補佐、竹内主事

### 4 議 題

#### (1) 報 告

- ア 平成28年度スポーツ振興事業実績及び平成29年度方針と施策について  
イ 千葉市スポーツ推進計画の進行管理について

#### (2) 議 事

- ア スポーツ実施率の向上プラン(案)について

### 5 議題の概要

#### (1) 報告

2項目の報告を行った。

#### (3) 議事

プラン案の検討を進めていくことで了承をいただいた。

### 6 会議経過

開 会 午後2時00分

【内山課長補佐】 それでは、定刻になりましたので、ただいまより、「平成29年度第1回千葉市スポーツ推進審議会」をはじめさせていただきます。本日の進行を務めます、スポーツ振興課の内山でございます。本審議会は千葉市情報公開条例により、公開することになっております。なお、本日は傍聴者はありません。なお、会議終了後、議事録の作成、議事録の確定を行い、開示されることとなりますので、あらかじめ御了解ください。

はじめに、委員の紹介としまして、平成29年5月2日をもって、人見委員が千葉市小中学校体育連盟会長を辞任されたため、スポーツ推進審議会委員を解職し、新委員として、後任の小山様に委嘱いたしましたので、ご紹介いたします。

【小山委員】 小山でございます。よろしくお願ひいたします。

【内山課長補佐】 事務局についても、4月1日付の人事異動で職員が変わりましたので、ご紹介いたします。

～事務局紹介～

【内山課長補佐】 続きまして、小川直哉会長にご挨拶をお願いいたします。

【小川 会長】 本日は本当に暑い中、平成 29 年度第 1 回のスポーツ推進審議会にご出席いただきましてご苦勞様でございます。先ほどテレビを見ておりましたら梅雨明け宣言が出ておりましたが、水不足が心配されます。かたや北九州地方では豪雨により大変な被害が出ておまして、本当にお気の毒さまでございます。昨日、オークラ千葉ホテルにおいて、2020年東京オリンピック・パラリンピックの千葉県強化指定選手の授与式がございまして、オリンピック選手が121名、パラリンピック選手が55名が授与されました。みなさん、非常にいい表情をしておまして、特に障害者の方も多数参加されておりましたけれども、目が輝いておまして、深く感銘を受けた次第でございます。2020年の東京オリパラを控えて、国民の皆さんのスポーツに対する関心が上がっているかと思いましたが、スポーツの実施率というのは年々下がっておりまして、昨年度、全国の平均が42.5%。欧米の先進国を見ますと、低いところでも60%、だいたい70~80%とということで、日本はその半分くらいということで、千葉市はさらにその全国平均を下回っております。ただ、千葉市は千葉県民総合体育大会では毎年男子優勝、女子優勝、総合優勝という成果をあげていますので、やっている人とやっていない人の差が大きいのかなと思います。そのため、千葉市の市民の実施率の向上というのが大きな課題かと考えております。本日は報告が2件、議題が1件です。ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

【内山課長補佐】 ありがとうございます。続きまして、生活文化スポーツ部長安藤より、ご挨拶を申し上げます。

【安藤 部長】 みなさまこんにちは。安藤でございます。本日は第1回のスポーツ推進審議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、日頃から市政多課にわたりまして、多大なるご支援、ご協力をいただいておりますこと、厚く御礼を申し上げます。さて、小川会長からあしましたように、東京オリンピック・パラリンピックがいよいよ3年後ということで、オリンピックは7月24日の開会式、パラリンピックは8月25日の開会と、いよいよという段階にきております。本市としても、7競技種目が千葉市で開催されるということで、これをなんとか成功に導いていきたいと考えております。そのような中、この8月に千葉ポートアリーナでジャパンパラのゴールボール大会、これは国際大会ですが、このような大会も開催されますし、オリンピック種目に追加されましたソフトボールについても、来年2018年に女子世界選手権大会がZOZOマリスタジアムにて開催されます。この1年前イベントとしてこの8月に1年前イベントが開催され、今後機運の盛り上げを図っていききたいと考えております。さらには、障害者スポーツの分野では、9月にパラスポーツフェスタというものがポートアリーナで開催され、障害者スポーツが一堂に会して体験会等を実施するというので、オリパラに向けた機運の盛り上げを実施していきます。また、ハード面につきましては、この4月1日、高洲市民プールをリニューアルいたしまして、高洲スポーツセンターとして、磯辺第二中学校の跡施設として、スポーツ施設に転換いたしまして、磯辺スポーツセンターということで2施設がオープンし、たくさんの方々にご利用いただいております。また、蘇我エリアについても、蘇我スポーツ公園の整備が着々と進んでおまして、ハード面も計画通り進めております。今後ますます、する、みる、支えるという環境を用意していく必要があると考えております。本日の議題については、報告事項が2点、議事とし

ましては、会長からお話がありましたように、全国的な課題となっております、スポーツ実施率の低迷に対する千葉市の取組みとして、スポーツ実施率向上プランというものを提示いたしますので、皆様方の高いご見識とご経験から、貴重なご意見をいただければ幸いです。まとまりませんが、あいさつにかえさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

【内山課長補佐】 これからの進行につきましては、小川会長にお願いいたします。

【小川 会長】 まず、「議事録署名人」について、先程、進行の方から説明がありましたように、本審議会は会議が公開されており、議事録の確定方法については、「あらかじめ指名された委員」による承認にしたいと思いますが、よろしいですか。

【各 委 員】 <異議なし>

【小川 会長】 それでは、議事録署名人として、馬場委員にお願いしたいと思います。

【馬 場 委員】 <了承>

【小川 会長】 それでは、会議次第に従いまして、進めてまいりたいと思います。

最初に、報告（１）の「平成 28 年度スポーツ振興事業実績及び平成 29 年度方針と施策について」、はじめに、スポーツ振興課よりお願いします。

【竹内 主事】 <資料 1 により報告>

【小川 会長】 次に、保健体育課よりお願いします。

【曲利主任指導主事】 <資料 2 により報告>

【小川 会長】 次に、スポーツ振興財団よりお願いいたします。

【塚瀬施設長】 <資料 3 により報告>

【小川 会長】 今の報告について、何かご質問はありますか。

【小川 委員】 中学校運動部活動専門的指導者派遣のセーリング 1 名というのはどこの学校に派遣されたのですか。

【曲利主任指導主事】 磯辺中学校です。

【小川 会長】 千葉市小学校運動能力検定と千葉県運動能力証というのは、基準などが違うのですか。

【曲利主任指導主事】 千葉県の運動能力証については、千葉県が実施しているもので、基本的には全国体力運動能力調査等で行う実技種目を小・中学校で実施しています。千葉市ではそれに加えて、鉄棒、水泳などの種目についても、千葉市独自に基準を設けて、そういった種目にも積極的に取り組むということで実施しています。そのため、県と市では実施種目が異なっています。

【小川 会長】 スポーツ振興財団に伺いたいのですが、緑化推進及び啓発事業というのは、みどりの協会の業務を引き継いだということですか。

【塚瀬施設長】 そのとおりです。稲毛海浜公園でみどりの協会が実施していた業務を、スポーツ振興財団で引き継いだものです。

【小川 会長】 この事業についての予算は公園の部署でしょうか。

【塚瀬施設長】 そのとおりです。

【松尾 委員】 稲毛海浜公園プールのところにロッカーとシャワーがあり、プールが使えないときでも、これが有料で利用できたのですが、昨年からは使用できなくなっており、公園内を走っている人からは使用できれば便利だな、というような話を聞きました。

【塚瀬施設長】 使用できるよう検討いたします。

【小川 会長】 ほかに質問などありますか。

【委員】 <なし>

【小川会長】 それでは報告（２）、「千葉市スポーツ推進計画の進行管理について」、事務局よりお願いします。

【竹内主事】 <資料４により報告>

【小川会長】 今の報告について、何かご質問はありますか。

【佐藤委員】 トップスポーツとの連携の推進について、この実績件数にロッテやジェフは所管が違ふとのことで含まれていないとのことですが、28件とあるのは、ロッテ・ジェフ以外のトップスポーツチームとの連携の回数ということでしょうか。

【山崎課長】 そのとおりです。千葉ジェッツ、千葉ゼルバ、クボタスピアーズ、バルドラール浦安、富士通陸上部などの活動の回数です。

【佐藤委員】 ロッテとジェフは「マリーンズ、ジェフのホームタウンの推進」事業に含まれているということですね。

【内山補佐】 そのとおりです。ロッテ、ジェフの学校訪問活動はホームタウン事業の一環として実施していただいているものですので、スポーツ振興課事業としてのトップスポーツ連携事業の回数には含めておりません。

【佐藤委員】 市内でのチーム活動回数が28件とありますが、ロッテ、ジェフも含めるとかなりの件数になると思いますので、ここに含めることができれば、より千葉市は色々なスポーツチームに支えられているということが表れてくるのではないかなと思いました。

【小川会長】 私の記憶だと、昨年の会議の中でも同様の話があったかと思います。ロッテやジェフの学校訪問事業は教育委員会が窓口になっていたのでしょうか。

【山崎課長】 ロッテやジェフの学校訪問については教育委員会と直接調整をして実施しているものですので、この28件に含めておりませんでした。ロッテは20校弱、ジェフは100校近く実施していただいておりますので、今後カウントしていくということも検討していきたいと思います。

【小川会長】 ロッテとジェフの学校訪問件数は教育委員会に聞けば把握できるということですね。

【山崎課長】 件数については当課においても把握しておりますので、この連携事業にロッテやジェフも含めるかどうか、検討していきたいと思います。

【小山委員】 X-RUNというのはどのようなものなのでしょうか。

【内山課長補佐】 クロスカントリー大会で、この「クロス」を「X」として、X-RUNという大会名称となっています。もともとは千葉国際クロスカントリー大会として実施していましたが、日本陸上競技連盟が福岡と千葉の2大クロスカントリー大会の差別化を図り、国際色を福岡に、ジュニアや一般ランナーが参加できるものを千葉に持ってきたというところ。昭和の森で実施しているのは変わりませんが、名称や参加者が変わっています。

【小川会長】 ほかに質問などありますか。

【委員】 <なし>

【小川会長】 続きまして議事に入ります。議事（１）、「スポーツ実施率の向上プラン（案）について」、事務局よりお願いします。

【竹内主事】 <資料５により説明>

【小川会長】 今の説明について、質問、ご意見等ありましたらお願いします。

【馬場委員】 千葉市の実施率の26年度の36%の内訳というのは、国と同様に年代別での実施率

も分かるのですか。

【竹内主事】分かります。

【馬場委員】実施率の傾向というのは千葉市も国と同様の形ということですか。

【竹内主事】そのとおりです。

【馬場委員】性別に分けた場合の傾向などはありますか。

【竹内主事】性別に分けても若い世代の実施率が低いというのは同じですが、特に女性の方が実施率は低い傾向にあります。

【小川会長】年代別の細かいデータもわかりますか。

【竹内主事】はい、20代～50代までの実施率が低く、60代以上の実施率が高いという状況です。

【馬場委員】今日はどの程度の議論をするイメージですか。

【竹内主事】今回はこの実施率向上プランを策定したいという提案になるわけですが、今年度の審議会は本日を含めて3回、このあとは11月と2月と、この中でこのプランをまとめていきたいと考えておりますので、今回、ある程度方向性が決められるよう、委員の皆様が日頃取り組まれている中での気づきの点など、プラン策定の方針になるようなご意見等をいただきたいと考えております。

【馬場委員】それでは思いついたことを発言させていただければいいということですね。

【竹内主事】そのとおりです。

【馬場委員】個人的な感想になるかもしれませんが、働き盛りの方々の実施率が低いというのはどうしようもないのではないかなと思います。ただ、ブームであったり流行だとやる、ということがあると思いますので、そこに乗るのがいいのか乗せるのがいいのかわかりませんが、例えばスポーツ庁の鈴木長官が階段を登っているということですが、これもスポーツの一部に考えるかどうかという問題もあると思います。今、オリンピック・パラリンピックを控え、色々な紹介をすればするほど、スポーツのハードルが上がっている気がします。アスリートがやっているのがスポーツだという感覚がますます上がっていくような気がして、「おじさんが駅まで早歩きしたからウォーキングでしょ」みたいな感覚よりも、「オリンピック種目に出てくるようなものがスポーツでしょ」となると、僕たちやってないよね、となってきた感じがします。なので、スポーツってもっと気軽にいいんじゃないの、レクリエーションの延長でいいんじゃないの、というようにハードルを下げれば、実施率は簡単に上がるのではないかなと個人的には思っています。うちの近所でも犬の散歩を早歩きでしているおじさんやおばさんがたくさんいるので、これはみんなスポーツなのだろうなと思います。あと、今の時代ですと、若い人はSNSとかメディアとか、そういうのをうまく使って、盛り上げるようなことがもっとあればいいのになと思いました。

【小川会長】高齢者のウォーキングなどもスポーツとして実施率にカウントされますよね。

【山崎課長】カウントされています。

【馬場委員】本人がこれはスポーツだと思うのかどうかという問題がありますよね。

【安藤部長】調査の際、ウォーキングという設問で出していますので、散歩してぶらぶら歩きをしているのを本人がウォーキングと捉えているかどうかで実施率も変わってきます。スポーツという用語がかえって障壁になっているのかなと思うところはありまして、運動しようかなということであっても、スポーツとなるとハードルが上がってしまうというのがありますので、統計の取り方というのも考えていかなければいけない

と思います。

【小川 会長】私も個人的に毎朝ジョギングをしていますが、高齢者の方のウォーキングというのが非常に多いです。テレビでも健康を取り扱う番組が多く、生活習慣病にはウォーキングが一番いいということで、そういうことが浸透しているのかなと思います。あとは、調査の際に本人がそれをスポーツとして捉えるかどうかということですね。

【五月女委員】“スポーツのため”にというよりも、“運動のために”というほうがいいのではないかと思います。スポーツって言うとハードルが上がりますので、運動のために犬の散歩にいかうとか、運動のために歩こうとか、気軽な運動という言葉うまく活用していければいいのかなと思います。特に高齢者の方は運動のために、というような気軽な持っていきかたで、実施率というのは上がっていくのではないかなと思います。

【小川 委員】国では20代～40代の若い世代の実施率が低いということで、これを上げるために色々アイデアを出してウォークビズなどをやるということですが、我々は50代後半から70代前半のニューエルダーの世代の方を重点的に、その中でスポーツをやったことのない人、スポーツの苦手な人などをどうやってスポーツに関わってもらえるかということで、簡単にできるようなうちわと風船を使ったうちわバレーボールなどを普及しているのですが、そういう視点で、医療費の削減とか、超高齢社会ですから、国は若者に視点を置くということですが、我々は高齢者の層に視点を置いています。高齢者は60%以上で達成しているからいいんだというのか、その視点の捉え方について、今後スポーツ実施率の向上を図るのには、若者を視点にするのか、高齢者を視点にするのか、両方やっていくのが理想なのだと思いますが、千葉市としてどういう風に考えていくのかという整理も必要かなと思います。

【山崎 課長】スポーツ推進計画の中では、お年寄りから子供まで、また、障害の有無に関わらずということで、すべての方々を対象にしています。

【本澤副会長】スポーツ推進委員でも、バレーボールとジュニアスポーツ大会をやっていますが、バレーボールについては年齢的に平均年齢が高くなってきています。年齢が低い方たちでも男子が3名入っていますが、高度化したプレーをしてきますので、そういう人たちと一緒にやるのは嫌だという風にちょっと変わってきています。規則的にも検討していかないといけない。一般の部とシニアの部がありますが、シニアの部の方が増えてきています。そういう傾向がありますので、この棲み分けなどについて考えていきたいと思います。ジュニアスポーツ大会についても、子どもたちを集めるのが困難になっています。これまで21会場ということでやっていましたが、実施時期が夏休みということで、子どもたちは合宿などと日程がかぶってしまって、出場できないというのが多くありました。そのため、今年からは12月までの間で、各地区で考えて実施することにしています。人数の少ないところは21会場といわず、会場を減らしてできないかということで進めています。一つ大きな問題があるのは、子どもたちの移動です。交通の便のいいところは、現地集合で構わないのですが、千葉市の奥の方に行くとき定期バスがないという地域もたくさんありまして、集まらないということがあります。各地区はその点をどうしたらできるかというのを課題にしながらかつ実施している状況なので、来年、この結果で人数が多くなったか、少なかったか、その辺も検討しながら、なるべく多く運動に携わる人口を増やしていきたい

いと考えております。

【佐藤委員】同じ規模の市同士でスポーツ実施率を競うイベントとして、笹川財団がスポーツチャレンジデーというのを実施していると思いますが、千葉市は参加したことはあるのでしょうか。

【安藤部長】千葉市はこれまで参加したことはありません。

【佐藤委員】ゴルフやランニング、サッカーなど、スポーツを実施した時間を足して、同規模の市で集計して競うということだそうですが、市原市は以前に参加して、ジェフも協力してやりましたが、実施率は少なからず上がるのかなと思います。集計が大変なのでやめたという話を聞きましたが、面白い形にすると、気軽に勝負事になるとやってくる方たちもいると思うのですが、検討などはされたことはあるのでしょうか。

【安藤部長】千葉市の規模になると、開催するのが非常に大変でありまして、比較的人口規模が小さいところであればやりやすいというのがあるようですが、我々が手を挙げて積極的にやるということまでは至っていません。実施にあたっては、莫大な予算もかかってくるということもありますので。ただ、アイデアとしては非常にいいものだと思いますし、予算がかからない中で開催できるのであれば手を挙げたいと思います。また、そういったものをアイデアとして、千葉市独自で各区対抗戦として実施するとか、様々な気づきもありますので、このような取組みも参考にしながら実施率向上プランの中で何ができるかというのを考えていきたいと思います。

【山根委員】65歳以上を対象とした健康づくりスポーツ教室に参加したこともあるのですが、だいたいどこの教室も99%は女性の参加者です。特に退職されて家庭に入ってしまった男性はなかなか出てきません。これも一つの問題なのではないかなと思います。その辺も啓発していかないと、女性だけでは限界もありますから、男性を引き込んでいくようなイベントもたくさんやっていく必要もあると思います。

【谷藤委員】先ほど年代とか性別とかの話もありましたが、今は年代とか性別とかでライフスタイルがどうこうという時代ではないので、どういう人たちにアプローチするののかというのを考えていかなければいけないのかなと思います。運動に入るような活動をしている人たちが、調査の時にそれも運動に入りますよと伝えても、『運動しています』、とはならず、鈴木長官も階段の上り下りしかしていなければ、もしかすると同じようなことをしても、スポーツをしていますかと聞かれたら、『はい』、とはならないと思います。なので、それもスポーツ・レクリエーションの一部なので、というのを大々的に出して、ウォークビズなどについてもスポーツ振興課じゃないところでやっていると思いますので、スポーツ振興課が運動着に着替えない活動についてもどんどん推奨していく、ということ在全国で1番目であるといいと思います。今はもしかしたら4、50年前のがちがちのスポーツだけの状況の時に、もっと幅広くやりましょうという時代の再来かなと思うくらい、スポーツの感覚はせまくなっていると思うので、スポーツ振興課として、運動着を着ない運動もスポーツとしてやっていきましょうというのがいいのかなと思います。その第一段階を踏んで、そこで終わりではなくて、スポーツは人との関わりということも大事だと思うので、それをきっかけにどうすると仲間と一緒にやれるかということにつなげていけるといいなと考えているのですが、例えばイベントにペアとかトリオとかで参加して、3人で参加したら5人のグループになって、そうすると次の機会につながるように、そうしたイベントがあるといいなと思います。チャレンジデーの話も、市

で全部やろうとすると大変ですが、うまくいっているところは、チャレンジデーの企画募集みたいなことを地域のスポーツをする機会を作る団体とか、小さいグループに募集をかけて実施しているのではないかなと思います。スポーツをする機会も増えて、する人も増えて、やろうという人が増えていくといいのかなと。どの年代にこんな層がいるということをつんで、そういう人たちへのアプローチを練っていると、可能性が広がっていくかなと感じています。実施率を上げようとする、根っからのスポーツみたいなところから離れていきがちなのですが、離れないために、最初は『見る』からかもしれませんが、スポーツ文化というものも大事にして、観るイベントに体験イベントも入って、障害者大会でもそうでしたが、大会の会場の中で体験できるようなことをしながら、運動不足の人から日頃からスポーツをしているという人までの間を少しずつ埋めていけるようなものを実施率向上プランに少しずつでもあてはめていければいいかなと思います。

【小川 会長】 そのほかに質問などございませんでしょうか。

【委 員】 <なし>

【小川 会長】 議事については以上となりますが、そのほかせっかくの機会ですので、何かご質問やご意見などありますでしょうか。

【小川 会長】 確認ですが、実施率向上プランというのは第2回、第3回である程度具体的になったものを案として提出されるということでしょうか。

【山崎 課長】 そのとおりです。

【小川 会長】 ほかに質問などはありますでしょうか。無ければ私から1つ、先日の議会の中で、熊谷市長が千葉市は競輪場が廃止と決まったということでしたが、今の指定管理者がレーンを500mから250mに改修して、競輪事業を継続する、また、国際大会も招致してやっていきたいということを新聞記事で読みましたが、競輪場については経済部、千葉公園については公園部の所管と思いますが、スポーツ関係の中では、千葉公園体育館の建て替え等も連動してくると思うのですが、今の時点で言える情報などはありますか。

【安藤 部長】 正式に市の内部で政策決定までは至っていません。事務所の提案レベルであり、事務方の中での話であって、実現性については不確定ではありますが、方向性としては、競輪事業を継続していくということです。委託先である日本写真判定が自らの資金でドーム型の250mバンクを国際規格の木製バンクに改修し、オリンピックの規格のものを作って、新しい競輪をやろうということで、競輪場というイメージよりも自転車競技場というものを作りたいという提案でございます。自らの資金を出すということですので、千葉市としてはこれまで施設の改修に膨大な経費がかかっていたということで、競輪場の廃止ということで進めてきましたが、民間企業の資金投入ということであれば、継続してもいいのではないかとということで、話が進みつつあります。今競輪場が建っている敷地については、500mバンクから250mバンクになりますので、若干サイズ的には小さくなるだろうということで、空いたスペースも出てきますので、千葉公園体育館をその隣接地に建てるということも検討を進めているところであります。自転車競技場につきましては、指定管理者の提案によりますと2020年のオリンピック前までには建てたいというスケジュールでございます。ただし、体育館については公共工事となりますので、なかなかそういうわけにはいきませんので、計画が具体化して、順調に工事に入ったとして、平成 34



年度に供用開始が最短ということになります。我々としては公園体育館の改修というのは長年の懸案事項でありまして、千葉公園体育館が老朽化に耐えられるのかというレベルになっていますので、一刻も早く建て替えたいということで検討をずっと進めておりますので、いよいよ競輪事業の方向性が出るのに合わせて、体育館建設事業も本格的に進めていきたいと考えております。ただし、これは決定事項ではありませんので、そういう方向で進みつつあるということです。スケジュールについても、できる限り最速で進めていきたいと思っています。

【山根委員】以前に、千葉公園体育館を中心とした建て替えの際に、障害者のスポーツセンターも含めた考えを入れた改修をするというお話があったということでしたが、今年の時点でその可能性はないとのことでした。そうすると、千葉市としては永久に障害者のスポーツセンターはできないということでしょうか。

【安藤部長】障害者スポーツセンターという単独の施設を作るという構想はありません。障害者の方も利用できるようバリアフリー化はもちろんしますが、障害者の医療的なケアというような専用のものを盛り込めるかというとなかなか難しいのかなと思います。

【小川会長】そのほかご質問などはありませんでしょうか。

【委員】<なし>

【小川会長】それでは、以上で協議を終了します。ご協力ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。

【内山課長補佐】小川会長、議事進行ありがとうございました。最後に、事務局より連絡がございません。

【竹内主事】平成29年度第2回の審議会については11月8日の水曜日を予定しておりますが、確定しましたらご連絡しますので、お忙しとは存じますが、ご出席につきまして宜しくお願いいたします。連絡は、以上です。

【内山課長補佐】それでは、これをもちまして、「平成29年度第1回千葉市スポーツ推進審議会」を終わらせていただきます。ありがとうございました。

閉 会 午後3時30分